

私は二十歳のときから飯場と仕事がない時はホームレスをし、パチンコに狂って地獄の日々を過ごして来ました。そんなある日、東京の中央公園で炊き出しに並んでいたとき、ある人から、「生活保護受けれるよ」と言われ、僕は神奈川の戸塚と言うところに連れていかれ、保護を受けることにしましたが、いざ蓋を開けてみると、諸経費だなんだといわれ、三万円しか渡さず「これで仕事探してくれ」と言われ、僕は渡された日に出ていきました。その後は、お金もなく、ちょっと悪い仕事にも手を出し、それからはどん底にまっしぐらです。シンナーの売やヤクザっぽい事もしました。それからは、犯罪をくりかえし、懲役にも二回行きました。今は何とか西成で細々暮らしています。まあ、これも壮絶な過去があったから、今ここまで立ち直れたきっかけなのかなと、自分自身そう思っている今日この頃です。

講評

いわゆる「地獄を見た」人生を送られてきたのですね。それでも立ち直れたのだから、人生捨てたものではありませんね。「壮絶な過去があったから」立ち直れた、という言葉が重いです。西成という場所も、人生をやり直させてくれる、数少ない土地であり、そこに巡り会えたのもよかったかもしれませんね。

(選者・星野)